

地域主義はかつて、大きな盛り上がりを見せた。特にポスト冷戦時代の90年代からは、グローバルな東西対立に縛られることなく世界各地で独自の発展を遂げた。たとえば欧州では、主権国家の枠を越える国際制度が発展した。90年代の初めには、単一欧州議定書に定められた市場統合が完成し、マーストリヒト条約に則って欧州連合(EU)が成立した。そして90年代の終わりには、ヨーロッパ共通の通貨であるユーロが登場した。他方、アジアでは「アジア太平洋」という新しい地域の存在が確立した。土台にあるのは、アジア太平洋経済協力(APEC)、ASEAN地域フォーラム(ARF)、東アジア首脳会議(EAS)といった制度である。これらは、中国やロシア、インドシナ諸国など冷戦時代には東側に属していた国々も包括しているため、新時代を象徴する枠組みとして評価された。

しかし近年、地域主義は、かつての勢いを失っている。各地の協力枠組みは、内部の矛盾を露呈したり、大国の都合に翻弄されたりしている。分かりやすい一例はEUの揺らぎであろう。英国の離脱や各国における排他的勢力の拡大により、この連合は大きな節目を迎えている。また「アジア太平洋」という地域の存在も不安定化している。内向きになった米国がTPPから離脱したことは記憶に新しい。この国は今、台頭する中国に対抗して、日本と共に「インド太平洋」という新しい地域を提案している。中国などを含む「アジア太平洋」と競合する地域である。他方、その中国が進める「一帯一路」構想に、東南アジア諸国連合(ASEAN)やアフリカ連合(AU)は大きな影響を受けている。ASEANやAUの加盟国は、欧米に加えて中国からも投資や援助を受けられるようになった。だが、それは必ずしも地域主義の強化にはつながっていない。ASEANが親中派と親米派に分裂する場面が増えているのは、周知の事実であろう。

とはいえ、以前からあるものの失速だけが現状の全てではないはずだ。各国が必死の巻き返しを図り、地域主義の再建が水面下で進んでいるかもしれない。旧来の慣行と新しい規範の相克を通じて、地域協力が独自の制度に昇華している可能性もある。また、小国が支持する制度と大国が主導する体制の間に相互依存の関係が発展し、地域主義の多層化が進んでいても不思議ではない。いずれにしても、各地の地域主義は新しい局面に入っていると考えられる。各地では今、何が起きているのか。それは如何なる意味で特筆に値するのか。それを動かしている要因は何なのか。今回の特集号は、地域主義の新局面を包括的に理解することを目標とする。

研究目標を達成するには、精度の高い分析アプローチが不可欠なことは論をまたない。地域主義の新しい姿は、如何なる角度からアプローチできるのか。その核心は、どのようなコンセプトを基軸にして何に焦点を絞れば把握できるのか。理論研究、地域研究、歴史研究で定着している視点や手法は、どこまで有効なのだろうか。既存のものに限界があるならば、それは如何に修正すべきなのだろうか。今回は地域主義の新局面を斬新な角度

から捉える意欲的な研究を募りたい。関心を向ける地域は、欧州、アジア、ユーラシア、中東、アフリカ、北米、ラテンアメリカなど世界各地である。特定地域に焦点を絞る著作と、複数の地域をカバーする論考を通じて、グローバルな潮流に光を当てる特集号を志向したい。

論文の執筆を希望される会員は、論文の仮タイトルと要旨（600~800文字）に、自宅と勤務先の住所・電話番号・メールアドレスを付記して、下記の編集責任者に電子メールでお送りください。締め切りは2023年3月31日です。特集号の構成などを総合的に勘案し、執筆をお願いする会員には2023年5月10日までに編集責任者から連絡させていただきます。原稿の最終締め切りは2024年3月31日の予定です。分量は、執筆要領に定める計算方法で2万字以内です。複数名による査読を経て、最終的な掲載の可否を決定いたします。本特集号の刊行は2024年11月30日の予定です。

執筆要領については、以下の学会ウェブサイトをご参照ください。

<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ、お申し込みは、下記にお願いいたします。

<編集責任者> 勝間田 弘

<連絡先> 〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 東北大学 国際文化研究科

TEL: 022-795-7595

E-mail: kokusaiseiji216★gmail.com (★を@に置き換えてください)